

構造化

学習環境の構造化



【方法】児童用の机と椅子の脚に硬式テニスボールをはめる。ボールが傷んできたら、その都度取り替える。

【効果】机・椅子の脚が床とこすれる音は、誰でも耳をふさぎたくなるものである。聴覚過敏のある児童は、静かな教室環境で生活することで、心の落ち着きを得ることができる。

【留意点】長期間使用していると、ほつれてきたりゆるくなるので、取り替える必要がある。

構造化

食缶の下に布巾を敷く



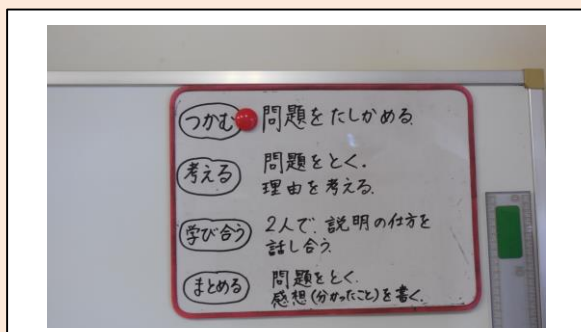
【方法】配膳をする際に、動いてしまったり回ってしまったりする食缶の下に、濡れた布巾を敷く。

【効果】力加減が難しい児童も、濡れた布巾を敷くことで、食缶が滑らないようになる。

【留意点】濡れた布巾を用意する。乾いた布巾だと、滑ってしまう。配膳台に敷くものなので、衛生面に配慮する。また、あまり厚すぎると浮いてしまい作業がしづらくなる場合もある。

構造化

時間の構造化



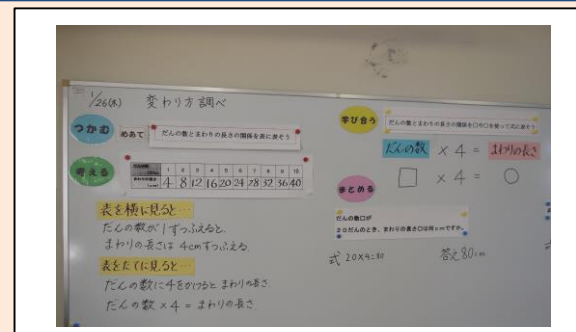
【方法】「つかむ・考える・学び合う・まとめる」という、1単位時間の流れを明示し、児童に授業の見通しをもたせる。

【効果】1単位時間の流れを明示することで、児童が、今、何を学習するのか、次にどのような学習をするのか見通しをもつことができる。

【留意点】明示した1単位時間の流れが、板書やワークシートなどとリンクしている必要がある。

構造化

板書の構造化



【方法】板書計画に基づいて、「つかむ・考える・学び合う・まとめる」の4つの構造が明確になるような板書をする。

【効果】板書の構造化によって、1単位時間の学習の流れが明確になり、授業を振り返る時や児童の考えを確認するときに効果的に活用できる。

【留意点】本時のねらいに合った板書をするために、児童の考えを精選して板書する必要がある。

構造化

ポーチによる持ち物管理



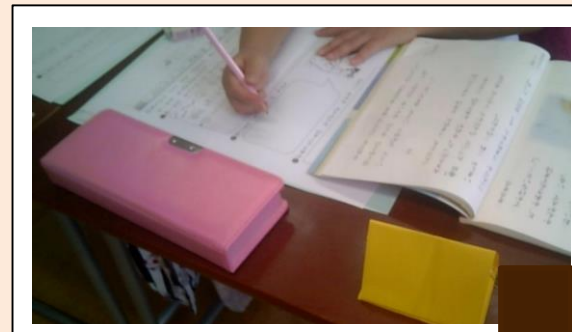
【方法】 図工の学習で毎時間持って行く「はさみ、セロハンテープ、のり」を小さなポーチに入れて道具箱にそのまま入れておく。

【効果】 毎時間道具箱から移し替えるのは時間がかかるが、ポーチを入れ替えるだけなので、準備がスムーズになる。道具箱の整理もしやすくなる。

【留意点】 道具箱に入る大きさにする。透明だとなお良い。

構造化

机間指導の構造化



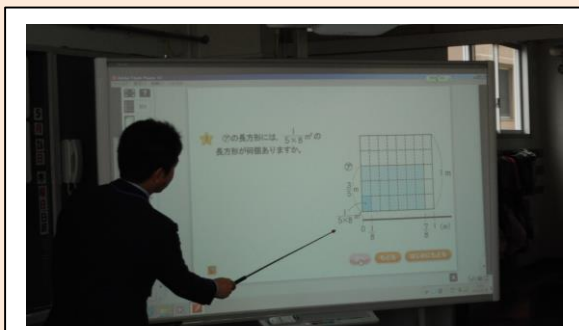
【方法】 自力解決時に、ヒントカードを必要としている児童が挙手をせずにお助けカードを机上に立てることで、教員から支援を受ける。

【効果】 挙手をするとう活動が完全に止まってしまうが、上記の方法をとることで教員が支援に来るまでの間も思考を続けることができる。

【留意点】 使用時のルールを明確化し、適切な場面で活用できるようにする。

視覚化

デジタル教科書の活用



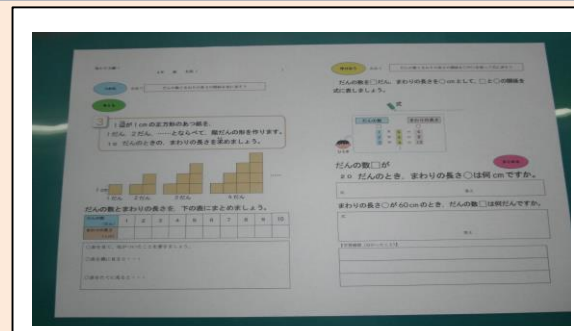
【方法】教科書会社が提供しているデジタル教科書を電子黒板にて使用する。

【効果】児童が使用している教科書と同じ画面を視覚的に示せる。児童と同様の教材を共有しながら説明に用いることで、理解の促進を図ることに効果的である。

【留意点】画面の切り替えがあるので、残しておきたいポイントなどには適さない。

視覚化

ワークシートの工夫



【方法】板書とリンクするようなワークシートを作成し、視覚的に学習しやすくする。

【効果】ワークシートと板書をリンクさせ、4つの学習過程が視覚的に見やすくなり、児童が、今、何の学習をしているのか明確になる。

【留意点】児童の多様な考えを引き出すためには、ワークシートに載せる学習問題を精選する必要がある。

視覚化

写真を活用した管理の工夫



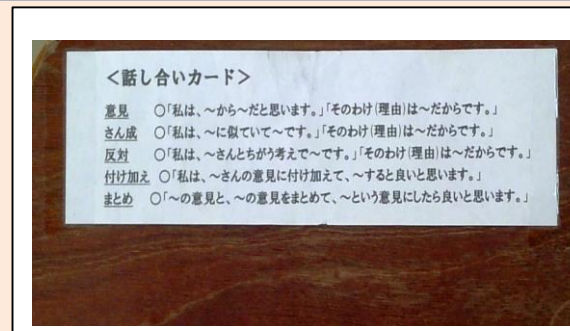
【方法】児童が使用する備品の管理の際に、写真を活用して種類分けする。

【効果】児童が備品を持ち出す際に、一目でどこに何があるか判断することができる。視覚情報を上手く捉えることができる児童は不安やパニックになることを避けることができる。

【留意点】児童が自由に使用できる校内備品や教材は、同様に管理すると良い。

視覚化

話し合い活動の支援



【方法】児童の机上に、話し合い活動を行う際の進め方や言葉かけの内容を貼り付けておく。

【効果】話し合い活動の話型を身に付けることができる。また、コミュニケーションが苦手な児童も安心して活動に参加することができる。

【留意点】話し合い活動が型にはまりすぎないように、児童の実態に合わせて、適宜内容を見直す必要がある。

視覚化

動画の活用



【方法】 体育科の表現の振り付けをタブレットで録画する。

【効果】 児童に踊り方を視覚的に示せる。繰り返し動画を見て、説明を行うことで、動きの確認や理解の促進を図ることに効果的である。パートごとに分けて録画することで、児童が苦手なところを重点的に練習することができる。

【留意点】 児童が見たまま同じ動きで踊れるように、鏡で踊る。

視覚化

時計盤の活用



【方法】 タイムタイマーと併用して、時計盤で終了時刻や次の活動内容を伝える。

【効果】 残り時間をタイムタイマーで知るだけでなく、今やっていることの終了時刻や次の活動の見通しがもてる。

【留意点】 口頭で「何分まで。」や「長い針が○まで」等、指示を出しながら針を動かすと音声指示に対する視覚支援ができる。

視覚化

話し合いの役割分担・順番



【方法】黒板に掲示し、話し合いをするときの役割分担や話す順番を示す。

【効果】グループ席の位置と対応させて「司会」や「発表」などを掲示することで、児童が自分の役割を認識することができる。また、話し合いへの参加意欲も高めることができる。

【留意点】場面や児童の実態合わせて、役割や話す順番を変えていくようにする。

視覚化

活動のイラスト提示



【方法】活動の手順を、口頭だけでなくイラストで提示する。

【効果】視覚で指示することで、音声指示だけでは活動が難しい児童も活動内容を理解することができる。朝の用意等黒板に予め掲示しておくことで、スムーズに活動できる効果もある。

【留意点】掲示する枚数は、情報過多にならないようにする。

視覚化

活動目安の提示



【方法】片付けの時刻を時計盤で示したり，掃除の役割をカードで示したりする。

【効果】時刻を明確に示すことで，活動時間を意識することができる。また授業後の掃除の分担も，役割を意識することができる。

【留意点】時計が読めない児童でも分かるように，時計盤と時計を同じ形にする。また，1 週間ごとに掃除の役割を変えると良い。

視覚化

片付け場所の提示



【方法】ペンを色別に分けて置く。

【効果】色分けされていることで，使用する際に選びやすく，すぐに活動に入ることができる。また，片付ける際も，戻す場所を迷うことなく片付けることができる。

【留意点】スペースに限りがある場合は，同系色でまとめても良い。

視覚化

指番号と手袋の使用



【方法】 けんばんハーモニカを演奏する時、指番号が書かれた手袋を身に付ける。

【効果】 視覚化することで指番号を認識しながら演奏することができる。

【留意点】 演奏がしやすい手袋を選ぶようにする。

意欲化

リコーダーの穴をふさぎやすくする



【方法】 リコーダーの穴にビニールテープを丸くカットしたもの貼る。

【効果】 うまく穴をふさげない児童は、ビニールテープを貼ることによってストレスなく音を出すことができる。

【留意点】 開ける穴の大きさが小さすぎると音が変わってしまうため注意する。目立つことが気にならないければ、魚の目パットの方が効果的である。

視覚化

指番号



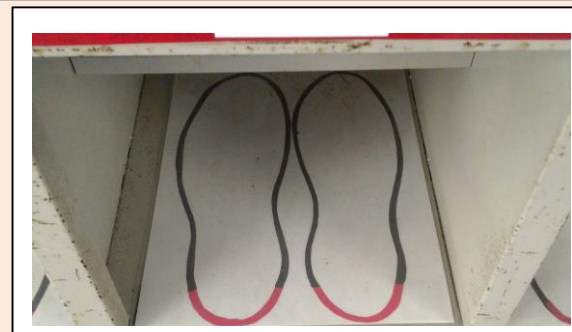
【方法】 けんばんハーモニカの学習時，黒板に貼り意識させる。

【効果】 指番号で歌うときに意識しやすくなる。

【留意点】 市販のけんばん黒板と併用して使用するとき，けんばんの大きさに合わせて作ると良い。

視覚化

くつピタシート



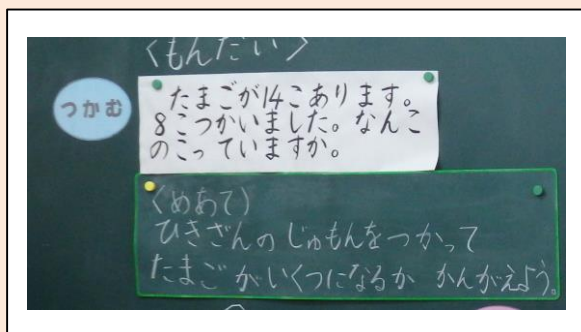
【方法】 靴箱の中に，ラミネート加工をした「くつピタシート」を入れる。かかとの部分は，赤線にするとより意識できる。

【効果】 靴のかかとを揃えて靴箱に入れることが難しい児童も，線に合わせることで，靴の置き方を意識することができる。

【留意点】 くつピタシートは，靴箱に合った大きさにする。また，定着してきたらシートを外しても良い。

焦点化

学習課題の焦点化



【方法】 4 5 分間を貫く学習課題を設定し、学習活動のポイントを明確に示す。

【効果】 学習活動のポイントを明確にした学習課題を設定することで、どの児童も学習活動に意欲的に取り組みと共に児童の思考力が持続する効果がある。

【留意点】 特に習熟度別の海グループにおいては、児童が十分理解し、活動できるような学習課題を設定する必要がある。

焦点化

指示の焦点化



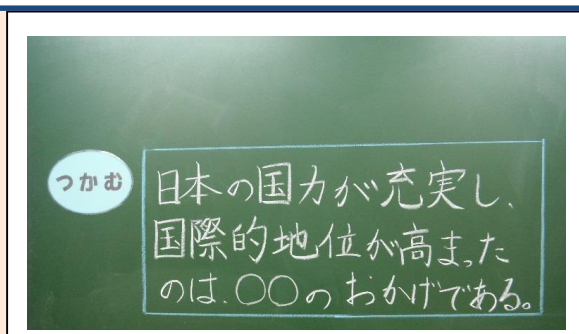
【方法】 一回一指示一活動となるように、教師の発語量を減らし、どの子にも分かりやすい指示を行う。

【効果】 児童に対する支持を焦点化することで、学習活動の内容が明確になり、児童の活動量を増やす効果がある。

【留意点】 複数の学習活動を伴う時は、指示を出した後、児童の活動を十分観察してから次の指示を出すことに留意する。

焦点化

発問を焦点化する



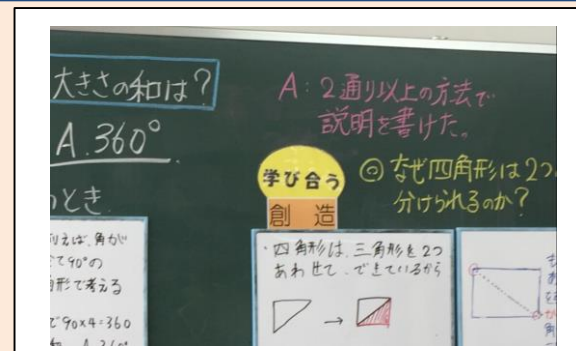
【方法】発問をつくる時に、社会的見方・考え方を明確にし具体的にします。

【効果】発問を具体的にすることで、だれでも活動できるようになる。

【留意点】例えば、「力をもっていた平氏に対して、源氏はどうして勝つことができたのか」「どうして、200年もの間遣唐使は命がけで中国に渡ったのだろうか」など、発問の間口を狭くすることで、具体的な発問をつくることできる。

焦点化

評価基準の提示



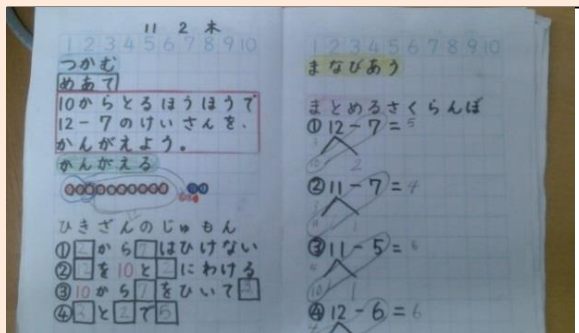
【方法】児童がその時間に達成すべき姿を、A 基準として黒板に赤字で明示する。

【効果】学習の目的を明確化し、児童の学習意欲を高めることに効果的である。

【留意点】児童に分かりやすい表現を使い、どの子も理解できるようにする。また、それに対応する評価を、授業中の見取り、ノートやワークシートで丁寧に行う。

焦点化

板書と同じワークシートの活用



【方法】 本時の学習の流れに沿って、最終的な板書が書かれてあるワークシートを用意する。必要な個所や自分の考えのみを書くようにし、書く負担を減らす。

【効果】 書く時間や写し間違いが減ることで、内容の定着が図れる。

【留意点】 必要に応じて、自分の考えを書く箇所もヒントカードを用いると効果的である。

焦点化

行ごとに切り込みを入れる



【方法】 お手本に行ごとに切り込みを入れ、1行ずらして重ねる。1行ずつ上にめくりながら書いていく。この時に、マスキングテープで用紙をとめる。

【効果】 お手本と用紙が離れていると正しく書くことが困難になる。そのため、お手本が行のすぐ隣にあるとずれがなく書くことができる。

【留意点】 右利きの児童は、左に1行ずらして重ね、左利きの児童は右に1行ずらして重ねる。

意欲化

マス計算によるウォーミングアップ



【方法】授業の導入でウォーミングアップとして、100 マス（50 マス）計算を行う。

【効果】授業のウォーミングアップとしてマス計算を行うことにより、算数に気持ちを切り替えさせると共に、集中力と計算力を高める効果がある。

【留意点】習熟度別の学習状況により、児童の達成感につながるように児童の実態によって 100 マスまたは 50 マス計算等、数を変える。

意欲化

即時評価による意欲化



【方法】学習問題や適用問題に取り組む際に即時評価を行い児童の意欲を高める。

【効果】考える時間などで、児童の考えを認めたり周りの児童の動機付けをしたりするような即時評価を行い、児童の意欲の持続を図る効果がある。

【留意点】児童の意欲を持続させるために、特に個別支援の必要がある児童には、適宜、即時評価を行う。

視覚化

構造化

準備物の提示



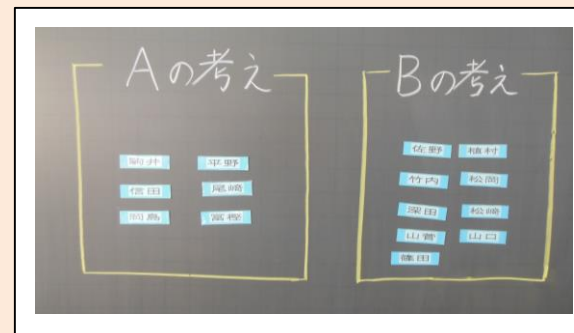
【方法】授業で児童が使用するものを、イラストと文字で提示する。

【効果】児童が授業で使用するものを音声指示と共にイラストで提示する。ミニホワイトボード等に貼ると、机の上に同じように置くイメージができて効果的である。

【留意点】児童全員が準備できたら提示を外すなど、余分な刺激にならないようにする。

その他

ネームカードの活用



【方法】指名の際や様々な活動において、黒板やホワイトボードにネームカードを貼る。

【効果】①黒板やホワイトボード上にネームカードを貼ることで、視覚的に分かりやすくなる。②児童の意欲の向上につながる。③意見や考えを共有しやすくなる。④指名にも便利

【留意点】教室後方からも見える大きさに作成する。

視覚化

焦点化

プロジェクターの活用



【方法】プロジェクターを活用し見本となる動き、児童の動きを動画で比べる。

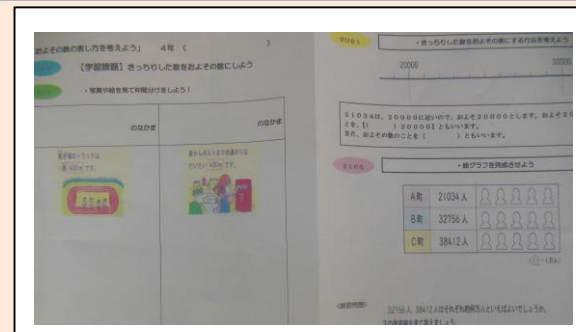
【効果】自分の動作を動画で見比べることによって、児童自身はできていたと以为ていても、実際は、できていなかったことに気付くことができ、児童自身で改善することができていた。

【留意点】動きのポイントを確認しながら見比べていくとよい。また、映像は見やすく、刺激を少なくする必要がある。

視覚化

意欲化

児童の実態に合わせた教材作り



【方法】児童の実態に合わせ、問題数や内容を調整した教材を作成し、視覚的に学習しやすくする。

【効果】ワークシートと板書をリンクさせることで4つの学習過程が視覚的に見やすく、今、何の学習をしているのか明確になり意欲化につながる。

【留意点】児童が45分の学習を集中し、意欲的に取り組むためには量や内容を調整、精選する必要がある。

視覚化

構造化

場所の特定



【方法】床にビニールテープを貼り，自分の位置を明確にする。

【効果】待機する位置や立ち位置が分かりやすいので，次の活動が円滑に行える。位置をハンドサインで伝えられるので，言葉による指示が減る。

【留意点】ビニールテープの色数を少なくし，視覚の刺激にならないように注意する。必要最小限のテープを利用することで，構造化がより図れる。

視覚化

構造化

一日の予定を掲示



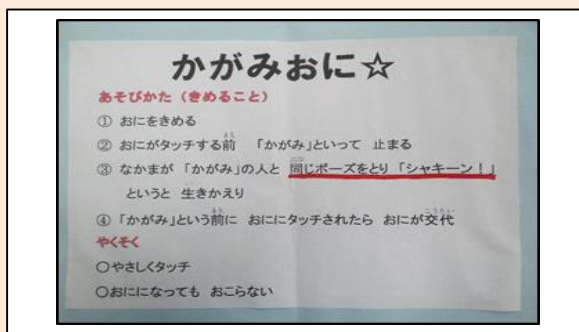
【方法】学びの教室の活動の流れを，一目見て分かるように視覚化・構造化されている。

【効果】朝の会や始めの会で使用する。一日の流れの時間と内容が，分かりやすく示されていることで，見通しをもちやすくすることに効果的である。

【留意点】予定の変更や内容に踏み込んだ説明が必要な児童には，補助的な説明を行う。

視覚化

遊びのルールを提示



【方法】遊び方や約束を提示し、全体で確認する。

【効果】遊びのルールを短く、ポイントを絞って提示することで、ルール理解がしやすくなる。事前に確認したルールを掲示して残しておくことで、自分の思い通りにルールを変更したい児童が出てきたときに、振り返りや確認をすることができる。

【留意点】文字の大きさや色を少なくし、見やすく刺激を少なくする必要がある。情報の精選・順序立をし、シンプルで分かりやすくする。

視覚化

意欲化

絵マークの活用



【方法】「話者を見る・話をしない・手はひざの上・足は床につける」に気を付け、聞き方・姿勢を意識させる。

【効果】絵マークで即時評価することで、意欲につながる。発表中に姿勢を正すことを促す際には、声はかけず絵マークを見せることで気付かせることができる。

【留意点】学習中は、姿勢保持や話の聞き方が意識できていない児童の絵マークはその都度付けたり外したりして本人に気付かせるようにしている。学習の最後には、必ず全員が花丸になってから終わるようにする。